

8. 中国（地域別調査機関：（社）中国地方総合研究センター）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連	良くなる	美容室（経営者）	・6月までは良い傾向で動いていたため、この災害から立ち直れば、また良い方向に動き出す。
	やや良くなる	百貨店（購買担当）	・7月末に市がプレミアム付き商品券を販売し、完売したという話からすると、まだ客の購買意欲が衰えていない。また当パートで来月地デジ関連フェアを実施するが、薄型テレビについての予約が既になり入っている。
		スーパー（総務担当）	・低価格志向は一層進むものの、買上点数が伸び、客単価は前年より上向く動きを見せている。
		コンビニ（エリア担当）	・秋口に向かっての商談は順調に動いており、季節商材についても例年並に注文が入っている。ボーナスも少なかつたとはいっても出そろっており、食品についての消費は落とさないと考えられるため、これからも順調に動く。
		衣料品専門店（店長）	・近くの神社で大きな行事があり、町そのものが観光等で活気付くので期待できる。
		乗用車販売店（統括）	・年度末に向け補助金が効果を発揮する。
		乗用車販売店（営業担当）	・新規のお客様の来場数が確実に増えている。販売実数はまだまだ少ないが、来月、再来月の購入になりそうな客が増えている。
		その他専門店〔布地〕（経営者）	・客は徐々に財布のひもを緩めており、買物をしようという気になってきている。
		一般レストラン（経営者）	・天気が良くなれば来客数も回復する。
		都市型ホテル（スタッフ）	・9月の連休の宿泊予約が、少しずつではあるが早くから入ってきていることから、個人消費が上向き傾向にある。
		通信会社（営業担当）	・政権が安定し、補正予算の執行が決まれば、雰囲気少し明るくなる。
		通信会社（総務担当）	・販売数が一定水準に達したため、これをきっかけとしたキャンペーン施策を展開するため、販売促進が期待できる。
		テーマパーク（業務担当）	・秋季にかけて行事を開催予定であり、広域広報の効果による来客数の増加が期待できる。
		住宅販売会社（経理担当）	・総選挙の結果次第では、期待感から景気が上向く。ただし客が安心して住宅購入や資金を投資できる世の中にならないと、抜本的な景気対策にはならないため、長続きはしない。
	変わらない	商店街（代表者）	・総選挙次第という気もするが、全体的な経済状況は持ち良くなってきている。消費は心理的な要因があるから、このまま推移する。
		商店街（代表者）	・今回の豪雨で大きな被害を受けた主要交通路が、3か月たっても復旧するかどうか分からない。
		商店街（代表者）	・選挙のある月は、様々な人が頻りに来街して多少ともにぎやかになるのだが、まだ全く変化がない。
		一般小売店〔茶〕（経営者）	・このまま悪い状態が続く。ただし当社は10年前から海外進出に努力しており、今年もこのような世界的な不況の中、少しずつだが輸出が伸びている。
		一般小売店〔酒店〕（経営者）	・現状がいい状況ではないが、消費者心理が上向ってくる期待があり、現在よりは悪くならない。8月は花火大会、盆踊り等イベントもあり人が動くので期待できる。
		百貨店（営業担当）	・7月の集中豪雨災害による影響から回復するためには、3か月くらいはかかる。
百貨店（営業担当）		・秋物商材の立上り状況を見ても、売上が回復するような兆しが全く見受けられない。	
百貨店（販売促進担当）		・やや明るいものが見えてきた気がするが、相変わらず客の価格に対する視線は厳しい。さらに冷夏、豪雨による農作物の影響も懸念される。	
百貨店（販売促進担当）		・良くなるための要因が見つからないが、これ以上悪くはない。どのテナントも固定客の抱え込みに知恵を絞っており、新規のお客様の獲得は、ほとんど諦めている。	
スーパー（店長）		・来客数確保のための価格競争は相変わらず激しく、利益率の確保が困難な状況がこれからも続く。	
スーパー（店長）		・ここ半年くらいこの悪い状態が続く。ボーナスが出た月でこの状態だから、冬のボーナスまでこの状態が続き、冬のボーナス時に企業の状況が改善されていなければ、更に長期化する。	
スーパー（経理担当）		・8月は、盆による消費は期待できるが、前年ほどの消費の増加は期待できない。	

スーパー（管理担当）	・お盆期間の帰省などにより購入点数・売上ともに増加が期待できるが、その前後での出賃を抑える傾向は避けられないため、トータル的には現在と変わらない。
スーパー（販売担当）	・スーパーの特売日は各社固定されてきており、客はそれを狙って使い分けているのでこれからも変わらない。
スーパー（経営企画）	・従業員の募集への応募が、従来より多い状態が続いている。また、客からボーナスが少なかったという声は多く聞かすが、当面好転するような話題は出ない。
コンビニ（エリア担当）	・客の買い控えもあり、スーパーやドラッグストアとも使い分けが進み、比較的単価が高いコンビニは、本当に必要なものしか買いにこなくなる。
衣料品専門店（地域ブロック長）	・今後も量販店は低価格路線を強めてくると考えられ、厳しい状態が続く。
家電量販店（店長）	・1か月後に政権がどうなっているか分からないため、客は先行きが見えず、購買に踏み切れない状態が続く。
家電量販店（店長）	・エコポイント効果で地デジ対応テレビ、冷蔵庫、エアコンは販売量の増加が見込めるが、大幅な伸びは期待できない。エコポイントの駆け込み需要が始まるのは、12月の年末商戦からとなる。
乗用車販売店（経営者）	・政府の景気対策に期待する声は非常に大きいのだが、政治に不安があって先行きは不透明であり、不安定な状況が当分続く。
乗用車販売店（サービス担当）	・減税と補助金がある間は、中古車関連は動かない。
自動車備品販売店（経営者）	・来客数が前年を上回らなければ景気回復の実感はない。商品の動きも集客用品等の動きは良くなく、主力商品の販売努力とETCの特需で数字を作っている状態であり、このため盆休み以降の動きが分からないと判断できない。
その他専門店〔時計〕（経営者）	・総選挙もあり、政治の不安定が続き、生活への不安定感から、買い渋りが続く。
その他専門店〔書籍〕（従業員）	・前年に世界的ベストセラーの売上があったため、しばらくは前年比の数値は厳しい。
その他専門店〔和菓子〕（営業担当）	・大きな回復は望めず、現状維持で推移する。
一般レストラン（店長）	・例年ならこの時期は盆などの予約が一杯のはずだが、しかし今年はまだ6割程度しか埋まっていない。夏休み全体での動きが下向きになっている。
その他飲食〔サービスエリア内レストラン〕（支配人）	・今後も今の流れは変わらずに動く。今以上良くなることはないが、悪くなる要素もない。
都市型ホテル（従業員）	・今後の予約見通しから判断すると、やや悪い状態が変わらない。
都市型ホテル（総務担当）	・景気が上向く要因が乏しい。また、業界が低価格傾向にあり、価格を下げた分、販売量を増やさないと採算に合わず、営業総利益でもマイナスになってしまう状況が続く。ホテルの「売り」である料理のクオリティを下げることは不可能であり、また仕入販路を開拓するのは容易ではなく、必ずしも価格施策等の販売努力が売上に密接につながるとは限らない傾向も継続する。
旅行代理店（営業担当）	・今回の総選挙でもどちらが勝っても影響はなく、現在の経済状況が変わることはない。
タクシー運転手	・客からも格別良い話も聞かないので、このまま推移する。
タクシー運転手	・客との会話は様々だが、年寄りが増えてきたから儉約しなければ暮らしていけないという話しが最も多く、希望が持てないような状況が続く。
通信会社（企画担当）	・販売量は戻らないものの、売れる部分はある。ただし地元企業の業績は改善の方向にはまだなく、消費に好循環をもたらすには至らない状況が続く。
通信会社（通信事業担当）	・新規の加入は相変わらず少なく、問い合わせ自体も減っており、回復の兆しも今のところは見えない。
通信会社（営業担当）	・2011年の地上デジタル放送への完全移行に向けた、デジタル化対策としての需要はあるが、有料多チャンネルテレビ放送、インターネットとともに大手通信業者との競合が激化しており、新規契約数の大幅な伸びは望めない。
テーマパーク（管理担当）	・来客数はこれからも変わらず推移する。
テーマパーク（広報担当）	・新型インフルエンザでキャンセルとなった団体が秋に動く可能性に期待しているが、秋に向けて感染が広がる可能性が懸念される。

	美容室（経営者）	・来客数を確保するには安売りしかないような状態だが、それを実施すると結局売上に響いてくるので、対応に苦慮している。	
	設計事務所（経営者）	・来年から始まる、省エネや緑化などの建築に関する優遇税制や助成金などの制度が具体化する見通しが無い。	
	住宅販売会社（従業員）	・受注量は変わらず、単価的競争の激化により、客自体も戸惑っているような状況が続く。	
	住宅販売会社（販売担当）	・政府の景気対策が、まだ住宅販売増につながっておらず、つながりそうにもない。	
やや悪くなる	商店街（代表者）	・プレミアム付き商品券が発行されてから半年経ち、ほとんど使用されたのと合わせて売上・来客数共に減少してきており、回復しない。	
	一般小売店〔印章〕（営業担当）	・こうも梅雨が長引くと外出が少なくなって更に売上に影響が出、更に商品にも影響がでかねない。またせっかく高速道路料金引き下げられたのに、夏休みの観光にも影響を及ぼしかねない。	
	百貨店（営業担当）	・梅雨が長引いて残暑が厳しくなることが予想され、メーカーの生産減から秋口にはバーゲン在庫が不足する。秋物もまだ動かず相当苦戦しそうだ。	
	百貨店（販売担当）	・気温が下がってくれば秋冬物の動きが出てくるだろうが、春商戦の時のように、本当に必要になるまで買わないという客の動きは変わらない。	
	スーパー（店長）	・景気が良くなる情報、要素など、このあたりでは何も見当たらない。	
	コンビニ（エリア担当）	・中小企業などの景気回復には至っておらず、客の極力金を使わないと言う傾向は変わらない。	
	衣料品専門店（販売促進担当）	・安い物に客の目は向いているので、売る商品からプライス設定まで見直していかなければならない厳しい流れになっている。ただ、客の声で「夏は少ないが冬のボーナスは大丈夫」という声も増えてきたので少しは希望もある。	
	衣料品専門店（地域ブロック長）	・相変わらず必要なものしか買わないが、お金を出して良いものを買おうという客は減って、安くても良いという客が増えており、この流れは変わらない。	
	高級レストラン（スタッフ）	・これからの予約状況は、前年比で少ない。	
	その他飲食〔ハンバーガー〕（経営者）	・物価の値下げが不況感を増幅している雰囲気が強いため、客単価も落ち込んでおり、しばらく回復は難しい。	
	観光型ホテル（総務担当）	・館内で比較的好調なのは低価格な商品だけである。法人利用は相変わらず低調であり、総選挙の影響で、ますます利用は手控えられる。	
	都市型ホテル（経営者）	・客室及びレストランの予約状況が前年比でマイナスになっている。また総選挙を8月末に控え、人の動きが悪くなる。	
	タクシー運転手	・個人需要、法人需要とも今後好転する材料は何もない。特に8月は総選挙があり、選挙があれば必ずタクシー利用は減るので期待できず、秋になれば観光の予約がかなり入っているが、大きな期待は持てない状況である。	
	設計事務所（経営者）	・客との話を総合すると、大きな出費には大変慎重になっている。	
悪くなる	商店街（代表者）	・マスコミ等が経済の動向を伝えるが、失業のことなどばかりで、好転するような話題は全くないし、政治も不安定になるし、このような状況では客はものを買おうという気にはならない。	
	百貨店（売場担当）	・ラグジュアリーブランドの低迷が継続する。取引先の生産量の縮小がはっきりしてきており、商品確保が非常に困難な状況が顕在化してきた。メーカーが納入先を選別することにより、営業しにくい環境が更に進む。	
	百貨店（売場担当）	・ごく一部の勝ち組企業以外の従業員の収入は確実に下がっており、景気の回復感はなく感じられない。これから底なしのスパイラルにおちいる懸念が強い。	
	スーパー（店長）	・ここ3か月の来客数は月を追うごとに下がっており、この傾向から見て今後も厳しい。	
	スーパー（店長）	・商品単価の低下がとまらない。	
	スーパー（財務担当）	・個人所得は今後もまだ減ることが予想され、客単価が今以上に下がる。	
	一般レストラン（店長）	・これからも外食控えは継続する。客単価も低いまま推移する。	
企業動向関連	良くなる	-	
	やや良くなる	木材木製品製造業（経理担当）	・景気の底打ち感がやや感じられる。

	化学工業（総務担当）	・これから自動車、家電産業が回復してくる。
	化学工業（総務担当）	・取引先の在庫調整が進んでいる。
	窯業・土石製品製造業（総務経理担当）	・鉄鋼業の回復の影響が本格的に現れ、これから生産量が漸次増加してくる見込である。ただし生産部門の臨時休業の解消はまだ先となる。
	電気機械器具製造業（総務担当）	・エアコン、自動車関連ともに向こう3か月の受注が入ってきているが、今までとは違い全て増加のオーダーとなっている。流通在庫もほぼなくなっているとの声も聞かれ、部品メーカーサイドもやや強気となっている。
	輸送用機械器具製造業（経営者）	・自動車産業は多少上向いてきており、夏祭りなどのイベントへの参加要請なども入っている。
	広告代理店（営業担当）	・今回の災害の復旧のために相当な公共工事が出ると聞く。これにより県内の経済が活性化する。
変わらない	農林水産業（従業者）	・2年近くなかったエチゼンクラゲの異常発生がありそうで、休漁期に入って整備が完了した大型底引き船にクラゲ対策漁具を装着し、海中でクラゲをカットするための操業に入った。
	食料品製造業（総務担当）	・特に光熱費が一時下がって利益の圧迫が少なくなり、それなりの利益・売上が出て安心してはいたが、ここに来て物価に上昇の気配が出てきており、上半期より悪くなる可能性も出てきた。
	鉄鋼業（総務担当）	・自動車を中心とした受注量増加により、稼働率が上昇する。
	鉄鋼業（総務担当）	・少量かつスポット的な受注はあるものの、顧客の在庫調整も今しばらく続く見込みで、円高も加わり、2～3か月で景気が急激に回復する見込みはない。
	非鉄金属製造業（経理担当）	・全般的に出荷量は底を脱したものの、この先更に出荷増が見込まれる製品は少ない。
	金属製品製造業（総務担当）	・今後の受注の見通しは、前年比40%という現在の厳しい状態の延長線と想定しており、好転する兆しはない。年内はこのまま推移する。
	一般機械器具製造業（経営企画担当）	・特に海外向けの自社製品の受注が大幅に落ち込んでおり、売上不振の厳しい状況が当面続く。
	電気機械器具製造業（広報担当）	・若干、希望は持てるものの、回復の兆しにが見える状況には至っていない。
	輸送用機械器具製造業（経理担当）	・先行き不透明で予断を許さず、思い切った行動が起こしにくく判断に迷う状況が続く。
	建設業（経営者）	・落ちるところまで落ちている状態で3か月先には上がっていないと困るのだが、建設も、不動産も、その他もろもろも、これから動きがありそうにない。
	輸送業（統括）	・新規顧客については、ほとんどが現状より低額でない契約できない。また、顧客の輸送数量も増加に転じないまま、推移する。
	通信業（営業企画担当）	・各企業の設備投資についての検討において、今後の景気動向について各社とも慎重になっている。
	金融業（営業担当）	・土木・建築が悪いのは相変わらずである。ただ自動車メーカーが上向きになってきたため、部品関連の企業や運送関連に仕事が戻っている。ただし、それでも通常期の3～4割減と言った程度であり、完全に戻ってくるにはまだ時間がかかる。
		金融業（業界情報担当）
	会計事務所（職員）	・大部分の業種で夏場にかけて上向くかと思われていた売上高が、伸び悩んでいる。加えて、燃料費や材料費といった素材価格が徐々に上昇している。
やや悪くなる	食料品製造業（業務担当）	・スーパー等の売り出しにより、この期間に合わせて出荷する数量が減少傾向である。さらに今後納入価格の下落は避けられず、これが収益を圧迫する。
	輸送用機械器具製造業（総務担当）	・受注価格の引き下げで利益率は下がってきている。船舶用の大型エンジンの新規受注がストップしている状態で、先行きも不透明である。
	コピーサービス業（管理担当）	・取引先企業は、支出を抑制するため社内で処理する方向に拍車がかかっており、需要は減少の一途である。景気の底打ち感も全くもって感じられず、更にじわじわと悪化している。持ちこたえられるか不安である。
悪くなる	その他製造業〔スポーツ用品〕（総務担当）	・全くだめという訳ではないが、売れるものが特化してきて、それ以外のものはほとんど売れない状況が続く。
雇用	良くなる	-

関連	やや良くなる	求人情報誌製作会社（支店長）	・業種にもよるが、メーカーの稼働率が戻りつつある。
		民間職業紹介機関（職員）	・製造業において、従前から今秋を目的に少しずつ上向くとの声を方々から聞いているが、そこに照準を合わせて採用意欲も少しではあるが出始めている。ただし、IT関連の先行き不透明感はいまだ拭えず、とてもではないが産業全体を底上げできるものではない。
		民間職業紹介機関（職員）	・顧客からの話では製造業を中心に「求人を検討している」「以前いた期間社員を呼び戻そうか検討中」など、今後に期待できる話も聞こえ、これから求人数が上向く。
変わらない		人材派遣会社（担当者）	・周辺企業からのヒアリングにおいて、回復の期待感はあるものの、受注状況の変化は乏しいようであり、先の見込みが立っている様子がない。
		人材派遣会社（支店長）	・人員削減企業が今後3か月間で10社程度出る見込みである。
		人材派遣会社（営業担当）	・製造や物流の作業職の派遣依頼は増加傾向にあるが、逆に事務系・販売系職種の派遣依頼は減っており、少ないパイをめぐって、競争が更に激化する。
		職業安定所（職員）	・求人募集は必要最小限の欠員補充が精一杯の状況が続いている。毎年新卒者の採用を継続している企業でも、来春の卒業予定者の採用については、計画が立たないとの話が多く聞かれる。
		職業安定所（職員）	・休業による生産調整等を行っている事業所からの、雇用調整助成金申請のための新規の休業等の計画届け出件数は減少傾向にあるものの、休業日数・実人員等は同水準であり、減少となっていない。製造業の一部には臨時的な受注があり6、7月の休業を取りやめたところもあるが、9月以降の見通しは分からない企業が多い。
		職業安定所（職員）	・大企業などの休業による雇用調整は終息に向かいつつあるが、中小・零細企業の建設業や運輸業への影響が出始め、新たに休業を計画しているところも数多く存在する。
		職業安定所（雇用開発担当）	・中小企業緊急雇用安定助成金の実施計画提出状況を見てみると、制度の拡充等による活用増という面もあるが、縮小傾向は今のところ感じられない。業種から見ても、製造業を中心としたものから、建設、運輸、ソフトウェア業等への広がりが見られる。
やや悪くなる		求人情報誌製作会社（担当者）	・積極的に採用活動を展開する予定の企業はなく、よくて現状維持、場合によって予算縮小の傾向の企業が多い。
		求人情報誌製作会社（支社長）	・雇用調整の話が、これからも継続する。
悪くなる		新聞社〔求人広告〕（担当者）	・行政もこれといった有効な景気対策を打ち出しておらず、雇用状況はまだ底が見えない状況が続く。